

## 7月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和5年7月26日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 14時55分まで		
出席者	教育長	澤野 幸司	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、高橋勝栄、甲斐千尋	
	参 与	志道里香、竹光俊司、瀬之口博行、早瀬誠一郎、山田 聡、工藤靖治、 山本栄作、太田康晶、下野隆平、川越康弘、中野 敬、黒田雄三	

◎ 議 事

- ◆議案第10号 令和6年度使用小学校用教科用図書の採択について（学校教育課）
- ◆議案第11号 令和6年度使用中学校用教科用図書の採択について（学校教育課）
- 学校教育課長より、以下の説明が行われ、質疑の後、異議なく承認された。

○本議案は令和6年度に小中学校で使用する教科用図書について採択するものである。教科用図書とはいわゆる教科書のことであるが、教科書については、法令により、基本的に使用期間が4年と定められている。

○議案第10号について、現在小学校で使用している教科書については、今年度が採択の4年目となっていることから、法令で定める使用期間である4年が経過することとなっている。このため、令和6年度から小学校で使用する教科書については、今年度に採択替えを行う必要がある。

○教科書の採択については、延岡市、日向市、東臼杵郡内の4町村と西臼杵郡の3町の合わせて9市町村で構成される「教科用図書北部採択地区協議会」で選定された教科書をその地区内の市町村教育委員会で採択するということとなっている。別紙資料1に教科書採択事務の流れという図を掲載している。今年度、この北部採択地区協議会が、6月6日（火）と7月11日（火）の2回開催され、令和6年度に使用する教科用図書について、資料の別紙1の通り、小学校においては、全部で13種目11教科が選定されたところである。またそれぞれの教科についての選定理由は次のページ以降に添付している。

○協議会での選定を受けて、延岡市における令和6年度に使用する小学校用教科書図書の採択については、この北部採択地区協議会の選定通りに採択することについて、本日審議をお願いするものである。

○議案第11号については、現在中学校で使用している教科書についてである。

中学校の教科書については、今年度が採択から3年目となっていることから、法令で定める使用期間内なので、令和6年度も今年度と同じ教科書を採択していただきたいと考えている。中学校で使用する教科書は全部で16種目10教科である。

- ◎) 昨年度は小中学校どちらも採択替えの年ではなかったもので、よほど問題のある教科書を使っていない限りはそのまま継続でということで承認していただき継続していたが、今年は小学校の教科書が採択替えの年になっているので、A委員にも行っていただいた採択地区協議会でいろいろ議論をして、この教科書がいいのではないかとという案を作ってもらったのが、議案第10号の2枚目にある別紙1の教科書になる。現行の教科書と違っているものは小学校の社会科で、現行は東京書籍であったものが、日本文教出版のものに替えたほうがいいのではないかと、採択地区協議会ではまとまったので、ここのところについて我々はどう判断するかということが、議案第10号に関しては一番の肝になる。議案第11号に関しては、採択替えの年ではないので、委員から意見がない限りはこれをそのまま継続でとなってくる。まず小学校の教科書について、A委員に、協議会の中で、印象的な場面や社会科の変更のことなどについて何かあれば伺いたい。
- ◎) すべての教科書は検定を通過しているので、どれも甲乙つけがたいというような教科書ばかりだと思うが、そのような中で何らかの特色が出ている部分がいいのではないかなという判断材料の一つとして、今回日本文教出版の社会科の教科書が採択されている。こちらについては、宮崎県の郷土を扱った資料が大変多いということで、この単元を通して、例えば5年生の社会科であれば、畜産業の盛んな地域ということで、それも宮崎県という形で単元名になっている部分もある。やはり子供たちが使っていく教科書ということを考えたときには、そういう郷土色のある教科書ということであれば、延岡市もやっているように、郷土を愛する心という部分に十分通じていくという特色がこの教科書の中にはあるのではないかなというように意見が出されたところである。
- ◎) そのような議論があり、小学校においてはほぼ変わらないが、社会科の教科書が、日本文教出版の方が良いのではないかなという意見をいただいた。なお、社会科の地図帳は替わっていない。ここで3点伺いたい。まず、毎年聞いていることだが、現行の教科書の中で、学校から、ちょっとこの教科書は使いにくい、なかなか指導しにくい、子供たちの現状に合っていないなど、そういった意見が来っていないか。2つ目は、我々も今度新しく協調学習だとか、またはA1ドリル、キューピナを導入したり、いろんなことを施策としてやっているが、その施策との絡みの中で、教科書と採用しているコンテンツとで少し不具合があって、学校から指導しにくいという意見が出てきてないか。3つ目は、今回地区採択協議会の中で、社会科が替わっている。社会科の中で、延岡の場合は人権同和教育に非常に力を入れているので、この人権同和教育絡みの中で、教科書を変更することによって、これまでのそういった指導の蓄積というものが使いづらくなってくるというような懸念がないかどうか、この3つについて伺いたい。
- ⇒) 1つ目の現在の教科書の使用について、学校の教員等から使いづらい、使用しづらい等々の意見は今年度も届いていない。2つ目の教育の施策を推進していく中での教科書のあり方について、今回の選定においても、教

科書については、児童にとって使いやすく、理解しやすいもの、また指導する教師にとっても指導しやすい教科書を慎重かつ公正に協議が行われて選定されていると考えている。またその採択地区の実態に合致しているもの、例えば先ほどA委員が言われた県内の郷土教育等が多く盛り込まれていることなど、その辺の評価もされており、特段の問題はないと考えている。3つ目の人権問題等について、延岡市においても人権問題等については、これまでも様々な学習を行ってきた。今回の教科書において、人権問題等に関する内容については、特に特徴的なものがあるというものでなく、統一的な表現が使用されているなど、基本的に人権の尊重等が記述されており、人権問題に配慮したものになっているととらえている。

- ◎) 学校からは特段心配する声は上がってきていないとのことであった。協議会の中でもいろいろ意見が出たが、先ほどA委員が言われたように、教科書はどこも力を入れていて、どの教科書会社もかなりいいものを作ってきているなあという意見が対策協議会の中で出ていた。これもいいよねっていうのもたくさんあった。ただ、学校のことを考えると、教科書が替わると何を変えないといけないかということ、年間の指導計画を全部変えないといけないとくるので、これは学習指導要領が変わった時も同じで、それは仕方ないと思うが、そうではない時には、学校の負担のことを考えると、現行のものをできるだけ継続させたほうが、先生達からすると非常にありがたいし、働き方改革にも繋がってくる。そういったところもこの協議会の中で出されたところであったので、多くのものは継続だが、社会科の教科書は先ほどのような理由で替えたほうがいいのかということであった。
- ◎) 教科書が替わったりすると本当に大変だろうと思うが、4年で見直しがあって、やっぱり今までのものでいいよという話で続いていっているような気がする。そういうことについて、先生の中で1人か2人でも問題点を指摘する人はいなかったのか。
- ⇒) 協議会では、繰り返しになるが、県内の郷土教育等のことをよくまとめられている教科書とか、SDGSの取り組みの内容が記されているとか、人権問題については基本的な尊重の部分が記述されているとか、様々な意見もある中で、今回この協議会ではこの教科書を選定したということである。
- ◎) すべての先生がこれじゃないといけないということにはならない。ただ、教科書の研究をしてもらう先生は、校長先生とか教頭先生、教諭、主幹教諭、指導教諭の先生、いわゆる普段から教科書を使っている先生達が入っているので、かなり現場の声は、教科書研究の中では生かされているのではないかなと思う。大規模校で使いやすいのと、小規模校で使いやすいというのは若干違ってくるのかなと思うが、全体で使うとなってくると一つに決めないといけないので、そういった多様な人たちの意見がここに反映されて最終的に選ばれたのがこれだということである。小学校については他に意見等はないか、中学校も特に学校からの意見もないということであったが、意見等はないか。(※質問意見等なし)